

参考資料3. 用語集

用語	説明
【アルファベット】	
AVS30	: 地表から深度 30m までの平均 S 波速度。地盤の硬さや地震動の増幅に関係する指標。数値が小さいほど柔らかく揺れやすい地盤である。
DEM	: Digital Elevation Model の略であり、数値標高モデルのこと。地表面を等間隔に区切り、それぞれの中心点の標高値を持たせたデータ。
FL 法	: 液状化抵抗比と地震時せん断応力比の関係から、各深度の液状化の可能性を判定する方法。
H/V スペクトル	: 水平動成分に対する上下動成分のフーリエ振幅スペクトル比。
J-SHIS	: 地震ハザードステーションの略称。地震ハザード情報や震源モデルや地盤モデル等を提供する防災科学研究所が運用するシステム。
N 値	: 標準貫入試験により得られる地盤の硬さを示す指標。N 値が小さいほど柔らかい。
PL 法	: FL 値を深度方向に重み付けして積分し、地点全体の液状化危険度を評価する方法。
PL 値	: 地点の液状化危険度を表す指数。FL 値を深度方向に集計して算出する。
R/V スペクトル	: 地震観測記録のラディアル成分に対する上下動成分のフーリエ振幅スペクトル比。
SGDAS	: Seismic Ground Disaster Assessment System の略。国土地理院のデータベースと、気象庁が発表する震度分布データを活用し、地震発生直後に、斜面崩壊等が発生している可能性がある場所を推計するシステム。
S 波速度	: 地盤中を伝わるせん断波の速度。S 波速度が速いほど硬い地盤である。
【あ】	
アスペクト比	: 建築物の高さと幅の比率。値が大きいほど細長い建物である。
アスペリティ	: 断層面で周囲に比べてすべり量が大きい領域。震源断層のなかで特に強い地震波を生成する。
液状化	: 地震時に地下水を含む砂質地盤等が一時的に強度を失い、液体のような状態になる現象。
液状化危険度	: PL 値で判定される液状化の危険度。
液状化抵抗比	: 地盤が液状化に抵抗する能力を示す指標。N 値、細粒分含有率、地震動

特性等を考慮して求める。

炎上出火件数 : 初期消火で消し止められず、炎上に至ると想定される出火件数。

応急仮設住宅 : 災害により住居を失った被災者に対して提供される、応急的、一時的な住宅のこと。

【か】

簡便法 : 経験的に求められた距離減衰式を用いて評価する手法。

給水人口 : 上水道により水の供給を受けている人口。

強震動生成域 : 断層面で強い地震動を発生させる領域。SMGA とも表記される。

緊急輸送道路 : 災害直後から、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線で、高速自動車国道や一般国道及びこれらを連絡する基幹的な道路。

クリギング法 : 観測点の値から空間的な分布を推定する補間手法。

計測震度 : 地震計の観測記録から算出される地震動の強さを示す指標の 1 つ。

工学的基盤 : 建築や土木等の工学分野での構造物設計の際には、地震動設定の基礎とする堅固な地盤。構造物の種類や地盤の状況によって目安とする S 波速度は異なるが、多くの場合 300～700m/s とされている。

【さ】

災害関連死 : 災害による直接的な被害ではなく、被災後の避難生活において疲労の蓄積や医療の滞り・環境の悪化など間接的な原因で、被災者が新たに罹患したり、持病の悪化などにより死亡すること。

在宅避難者 : 建物被害、ライフライン被害、エレベーター停止等の被害を受けたものの、避難所には避難せず、自宅等にとどまりながら避難生活を継続する人。

細粒分含有率 : 粒径 75 μ m 以下の土粒子の通過質量百分率。

残火災件数 : 消防力等で消火しきれず、延焼拡大するおそれがある火災件数。

山腹崩壊危険地区 : 都道府県や林野庁において、人家や病院、学校、道路等の公共施設などに直接被害がおよぶおそれがある地区を調査し、危険度が基準以上のものを山地災害危険地区として把握しており、荒廃状況や災害の予想発生形態により 3 種類に区分される。この 3 種類の一つであり、山腹崩壊（山くずれ）や落石などにより災害が発生するおそれがある地区である。

地すべり : 土地の一部が地下水等に起因してすべる自然現象又はこれに伴って移

動する自然現象。

地すべり危険地区 : 山地災害危険地区の一つであり、地すべりにより災害が発生するおそれがある地区。

初期消火成功率 : 出火初期に地域住民等によって消火に成功する割合。

処理人口 : 下水道施設により汚水処理の対象となる人口。

震度階級 : 計測震度を基に 10 階級で地震動の強さを示す指標。

深部地盤構造モデル : 地震基盤の目安である 3km/s 程度の S 波速度を示す層の上面から工学的基盤上面までの地盤構造。

人流ビッグデータ : 携帯電話等の位置情報を基に、人の移動や滞在状況を統計的に把握した大規模データ。

スフィア基準 : 人道憲章と人道対応に関する最低基準のことであり、1997 年に NGO グループと国際赤十字・赤新月運動が開始したスフィアプロジェクトにて、策定された。紛争や災害の被害者が尊厳のある生活を送ることを目的に定められた基準災害・人道支援において、被災者の尊厳と生活環境を確保するための国際的な最低基準。

全壊 : 住家がその居住のための基本的機能を喪失したもの、すなわち、住家全部が倒壊、焼失したもの、または住家の損壊が甚だしく、補修により元通りに再使用することが困難なもので、具体的には、住家の損壊若しくは焼失した部分の床面積がその住家の延床面積の 70%以上に達した程度のもの、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表し、その住家の損害割合が 50%以上に達した程度のもの。

浅部地盤構造モデル : 工学的基盤の目安である 300~700m/s の S 波速度を示す層の上面から地表までの地盤構造。

【た】

卓越周期 : 地盤や構造物が特に大きく揺れやすい周期。

断層パラメータ : 断層の長さ、幅、走向、傾斜角、すべり角、上端深さ、地震規模等、断層運動に関わる特性を表す数値。

地下水位 : 地下に存在する水面の高さ。

沈下量 : 液状化に伴って地盤が沈下する量。

統計的グリーン関数法 : 断層面を分割した要素断層から発生する地震波を経験的な知見で作成し、それを重ね合わせて地震動を作成する手法。

土砂災害警戒区域 : 土砂災害による被害を防止・軽減するため、危険の周知、警戒避難体制の整備を行う区域。

【な】

二次医療圏 : 都道府県において設定。医療法の規定により都道府県において設定される区域（概ね広域市町村圏）で、一体の区域として病院等における入院に係る医療を提供することが相当である単位として設定。

【は】

背景領域 : 断層面でアスペリティ以外の領域。

半壊 : 住家がその居住のための基本的機能の一部を喪失したもの、すなわち、住家の損壊が甚だしいが、補修すれば元通りに再使用できる程度のもので、具体的には、損壊部分はその住家の延床面積の 20%以上 70%未満のもの、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表し、その住家の損害割合が 20%以上 50%未満のもの。

微動探査 : 常時微動を観測し、地盤の速度構造を推定する調査方法。

避難者 : 建物被害、ライフライン被害、エレベーター停止等により、自宅での生活継続が困難となり避難を必要とする人。

避難所避難者 : 指定避難所等に避難し、そこで生活することが想定される人。

ベビーフード : 乳幼児向けの粉ミルク、離乳食等の食品。

ボーリングデータ : 地盤を掘削して得られる地層、土質、N 値、地下水位等の調査データ。

【や】

要配慮者 : 高齢者、乳幼児、障害者、要介護認定者、難病患者、妊産婦、外国人など、災害時に特に配慮を要する人。